

5:12 私の兄弟たち。とりわけ、誓うことはやめなさい。天にかけても地にかけても、ほかの何にかけても誓ってはいけません。あなたがたの「はい」は「はい」、「いいえ」は「いいえ」でありなさい。そうすれば、さばきにあうことはありません。

5:13 あなたがたの中に苦しんでいる人がいれば、その人は祈りなさい。喜んでいる人がいれば、その人は賛美しなさい。

5:14 あなたがたのうちに病気の人がいれば、教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリブ油を塗って祈ってもらいなさい。

5:15 信仰による祈りは、病んでいる人を救います。主はその人を立ち上がらせてくださいます。もしその人が罪を犯していたなら、その罪は赦されます。

5:16 ですから、あなたがたは癒やされるために、互いに罪を言い表し、互いのために祈りなさい。正しい人の祈りは、働くとき大きな力があります。

5:17 エリヤは私たちと同じ人間でしたが、雨が降らないように熱心に祈ると、三年六か月の間、雨は地に降りませんでした。

5:18 それから彼は再び祈りました。すると、天は雨を降らせ、地はその実を実らせました。

5:19 私の兄弟たち。あなたがたの中に真理から迷い出た者がいて、だれかがその人を連れ戻すなら、

5:20 罪人を迷いの道から連れ戻す人は、罪人のたましいを死から救い出し、また多くの罪をおおふことになるのだと、知るべきです。

ここでは長老について、信仰による祈りについて、義人の祈りについて書かれています。そしてそのよ

うな人の祈りは「罪は赦され」、「働くとき大きな力」になるということです。

そこで見のがせない大切なポイントがあります。それは「ですから、あなたがたは、互いに罪を言い表わし…」という点です。パウロは「義人」に対して、「罪を…」を言うのです。ですから罪がない人が「義人」なのではなく、罪を認めて正直に「言い表す」ことのできる人が「義人」なのです。この点をクリスチャンははっきりとさせなくてはなりません。

主を信じる者はそのような考え方をする必要があります。自分を何かきよい霊的な者に見てもらいよりも、罪を暴露して神様の赦しときよめを明かにしましょう。またそれを誇りとしましょう。

また人を見るとき、罪のない人などないということ、肝に銘じ、きよそうに見える人よりもむしろ自分の罪や足りなさを、正直に話す人を信頼しましょう。またそのような人に祈ってもらいましょう。

教師や役員やリーダーやスポンサーなどなど、教会での立場のある人も多いですが、立場ゆえによく見せなくなる誘惑から、主に心を守っていたください。

エリヤが雨の奇跡をもたらしたとき、エリヤは決して強くはなく、むしろ弱さを露呈していました。エリヤ、モーセ、ギデオン、アブラハムなどなど、聖書の勇者たちはみな信仰の弱い者であったことを思い出しましょう。主に頼り、主の全能とあわれみを証しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

